【 84 】

氏名	景　山　敏　明
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	乙　第　986　号
学位授与の日付	昭和53年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**正常および病的小動脈吻合部の治癒機転に関する組織学的，組織化学的研究**
論文審査委員	教授　寺本　滋　教授　折田薫三　教授　小川勝士

学位論文内容の要旨

近年，手術用顕微鏡下に微小血管の吻合手術が臨床上さかんに行われるに至っているが，吻合部の治癒機転に関する基礎的研究はほとんどみられていない。そこで，吻合手術において最も基本的で，しかも不可欠の問題と考えられる吻合後の治癒機転について，正常血管および病的血管における差異を検討した。

まず，92匹の正常ラットの左総頸動脈を鋭的に切断したのち吻合し，その治癒機転を組織学的，組織化学的に経時的に検討した。また，病的血管として，手術用顕微鏡下で両側腎動脈狭搾を行って作成した Goldblatt ラット96匹中，10週後の生存例48匹の左総頸動脈についても同様の検討を行った。

(1) 正常例では，組織学的治癒はほぼ4週まで完了するが，組織化学的治癒はそれより遅れ6～8週を要するという結果を得た。

(2) Goldblatt ラットでは，中膜筋細胞の変性の軽度な群と高度な群が認められ，後者は血圧上昇の強いものに多いようであった。

(3) 軽度変性群では，組織学的にも組織化学的にも，正常血管とほぼ同様に治癒した。

一方，高度変性群では術後中膜筋細胞の広範囲な，著明な変性壊死が起り，3週頃より組織学的にも組織化学的にも外膜側より治癒する傾向がみられたが，12週後もなお壊死組織が残存し組織学的治癒は認められなかった。組織化学的にも中膜の酵素活性は著明に低下しており治癒は認められなかった。

(4) 高度変性群における吻合術後の広範囲な中膜筋細胞の変性，壊死は術中の血流遮断による vasa vasorum の広範な障害に基づくのではないかと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は正常および病的小動脈吻合時の治癒機転に関して，組織学的，組織化学的に検索を加えた基礎的，実験的研究であるが従来十分確立されていなかった微小動脈吻合の治癒機転について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。